「まちゼミ」とは何か

◆商学研究所 定例研究会◆

先駆者「岡崎まちゼミの会」代表の松井洋一郎氏が講演

効果 店主のやる気 商店街の連帯

▶講演する松井氏

商店街再生のカギとして注目されている「まちゼミ」とは何か。商学研究所（所長＝渡辺達朗商学部教授）定例研究会が5月21日、生田キャンパスで開催され、先駆者である「岡崎まちゼミの会」代表の松井洋一郎氏がノウハウを語った。

松井氏は愛知県岡崎市の中心市街地・康生地区で4代続く化粧品店の店主。2003年から、商店街の店主が希望者に無料で専門知識を伝授する講習会「まちゼミ」を企画し、先頭に立って引っ張ってきた。

「イベントを多数やったがにぎわうのはその時だけ。商店街の売り上げにはつながらなかった」と言う松井氏は、価格や品ぞろえでなく「人」の魅力で顧客をつくろうと試行錯誤。たどり着いたのが「得する街のゼミナール」、略して「まちゼミ」だ。

予約制で1回60～90分、2～10人の受講者を対象に各自の店で行うのが原則。コミュニケーションを通じて店のこだわりや特徴を知ってもらい信頼関係を築くことが目的のため、受講中に販売はしない。

10店舗でスタートし、21回目の昨年度は72店舗が参加。1500人近い受講者が集う恒例行事に育った。中には「初心者のための万年筆講座」を開講し、1万円前後の万年筆が年間600本近く売れるようになった文具店も。子息が後継ぎとして戻り、大改装することが決まったという。

客の満足、各店の売り上げ増、商店街の活性化の三つを満たす「三方よし」で、今年5月の集計では全国67カ所に拡大している。

松井氏は「まちゼミが店の利益に直結するわけではないが、店主のやる気と商店街の連帯意識を生む効果は計り知れない」と締めくくり、川崎市内をはじめ近県からも来場した商店街や自治体の関係者らの質問に答えた。

渡辺教授のゼミナールでは、川崎市の新丸子商店街の活性化として「まこやさしズム21推進委員会」プロジェクトに協力している（詳細は次号で）。

シンポ「再生するコミュニティ―伝統・継承・創造―」

社会知性開発研究センター／社会関係資本研究センター主催のシンポジウム「再生するコミュニティ―伝統・継承・創造―」が5月25日、神田キャンパスで約50人が参加して開催された。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究プロジェクト「持続的発展に向けての社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の多様な構築：東アジアのコミュニティ、市民文化の観点から」（代表・原田博夫経済学研究科長）は最終年度を迎えた（2009年度採決）。本シンポジウムでは、ソーシャル・キャピタルの現状と課題を踏まえた地域コミュニティの研究報告と講演、パネル・ディスカッションが行われた。

研究報告では3氏が登壇した。

小西恵美経済学部教授は「諏訪御柱祭と地域コミュニティ」をテーマに、「御柱祭」という伝統行事が地方のコミュニティの形成・維持に果たした役割を報告した。

樋口博美人間科学部教授は農村型の祭礼である御柱祭と対照的な、都市部の祭礼である祇園祭を調査し、「祇園祭における〝祭縁〟」をテーマに、祭りをめぐって構築される社会関係（祭縁）を解説した。

飯田義明経済学部教授は山口県の日本女子体育連盟の参加者へのアンケート調査の結果を基に「地域コミュニティとスポーツ実践」と題し、成果を発表した。

続いて小林勉中央大学総合政策学部准教授が「地域活性化とスポーツ―ソーシャル・キャピタル論からみた人々のスポーツ実践―」をテーマに講演。スポーツクラブ活動が盛んな八王子市を例に、2000年以降、行政が主導する「総合型地域スポーツクラブ」の可能性と問題点を論じた。

引き続き、神原理商学部教授がモデレーターを務め、4氏によるパネル・ディスカッションが行われ＝写真、会場からの質問に応じた。

『生田緑地の木本植物』改訂版 自然科学研究所が刊行

希望者には頒布も

自然科学研究所が『改訂版 開花季節で調べる生田緑地の木本植物』＝写真＝を刊行した。吉江文男経済学部教授のゼミ活動として記録した、生田緑地と生田キャンパスでよく目にするおよそ250種の野生の樹木と植栽木が網羅されている。2007年研究所報に初版として掲載したものを、散策時期から検索できるように撮影日順に並べ替え、さらにハンドブックサイズに編集し直して製作している。

昨年『草本植物』として刊行し希望者に頒布したところ、HPなどを見た全国の方から問い合わせが来るほど好評を博した。今回も先着100人に頒布する。

一般の希望者は自然科学研究所ホームページ上に掲載されているフォームに必要事項を記入の上、自然科学研究所（FAX044・911・7254）までお申し込みください。学生の希望者は、自然科学研究所（生田キャンパス5号館1階自然科学実験室2）まで。

公開講座

人文科学研究所公開講座「平安京右京三条一坊六町、藤原良相邸の調査」

歴史学・日本文化史・日本文学史における一大発見「右大臣藤原良相邸百花亭跡」の発掘責任者である丸川義広氏を招き、講演と史料の紹介を行う。

▽日時＝6月22日（土）13時30分～▽会場＝神田キャンパス303教室▽講師＝丸川義広氏（京都市埋蔵文化財研究所統括主任）▽開会の言葉＝「良相邸出土墨書土器が語るもの」小山利彦人文科学研究所長（文学部教授）▽総括＝「藤原良相の周辺」荒木敏夫文学部教授

問人文科学研究所☎044・911・1090

日本ペンクラブ・人文ジャーナリズム学科共催「脱原発を考えるペンクラブの集いpart3～動物と放射能～」

3・11の福島原発事故がもたらしたものは、生きものたちにどう影響したか、そしてどう影響し続けるのかを検証する。入場無料。

▽日時＝6月29日（土）14時～▽会場＝神田キャンパス302教室▽プログラム＝【第1部】映画「福島 生きものの記録」上映【第2部】報告―動物と放射能【第3部】対話・質疑応答

問日本ペンクラブ☎03・5614・5391

第65回毎日書道展特別展示「手島右卿の書芸術―その世界性」

少字数書を究め、書を国際的芸術にまで高めた故・手島右卿（てしまゆうけい）氏（1901～1987）の展示会で、今夏、東京で開催される。代表作「崩壊」「山行」など特に評価の高い43点が展示される。

手島氏は専修大学元文学部教授。仲川恭司文学部教授（毎日書道会理事、独立書人団理事長＝1面で紹介）が同特別展示実行委員長を務める。

▽会期＝7月10日（水）～8月4日（日）▽会場＝国立新美術館（東京都港区六本木7・22・2）▽主催＝毎日新聞社、㈶毎日書道会

学位取得

飯田巳貴商学部准教授 一橋大学から博士（経済学）

飯田巳貴商学部准教授＝写真＝は4月30日、一橋大学から博士（経済学）の学位を授与された。学位論文名は「近世のヴェネツィア共和国とオスマン帝国間の絹織物交易」。

苅谷文学部教授 日本地理学会賞

3月29日に開催された日本地理学会2013年春季大会（開催地：立正大学熊谷校）で、苅谷愛彦文学部教授（環境地理学科＝写真）に、同学会より日本地理学会賞（論文発信部門）が授与された。受賞論文名は「ペルー・アンデスの大規模地すべりと人びとのくらし」。

また、苅谷教授の研究「多摩川上流域の山地斜面における深層崩壊に関する地形・地質学的研究」は公益財団法人とうきゅう環境財団から、2012年度に引き続き13年度も助成採択された。

永野教授の研究 助成対象に採択 旭硝子財団

永野由紀子人間科学部教授＝写真＝の研究「インドネシア・バリ島の水利組織（スバック）における人間と自然の共生システムの多様性と弾力性」が、公益財団法人旭硝子財団より、平成25年度研究助成（人文・社会科学系ステップアップ助成）に採択された。

専修人の新しい本

2012年に本学で博士の学位を取得した3氏の博士論文が専修大学出版局から刊行された。

いずれも2012年度専修大学課程博士論文刊行助成を受けたもの。

＝◇＝

事業の発展に伴う責任法の変容

著者（つゆき・みゆき）＝12年法学研究科博士後期課程修了。博士（法学）。本体3600円＋税。

中国刑法における犯罪概念と犯罪の構成

著者（ちょう・こううん）＝12年法学研究科博士後期課程修了。博士（法学）。本体2800円＋税。

グローバル企業のリスクマネジメント

著者（たかの・じんいち）＝12年商学研究科博士後期課程修了。博士（商学）。本体2200円＋税。